

今年も節句業界からの初出店が。また「変わり羽子板」も注目を集めた



初日には多くの報道関係者が取材に訪れた



江戸時代、正月用品や縁起物売る店が浅草寺境内に集まって「歳の市」が開かれた。12月18日は浅草寺の“納めの観音の日”であり、一年の最後の縁日であることから、吉例として大変にぎわった。現在この歳の市は、「羽子板市」としてその形をとどめている。今年の出店数は50余店。例年好評の東京藝術大学デザイン科と羽子板職人とのコラボレーション展や、チャリティーオークション、手形羽子板コーナー、プロの漫画家やイラストレーターによる似顔絵羽子板などの企画も実施。子どもから大人まで楽しめる冬の風物詩として、永年親しまれている。



浅草寺歳の市

# 羽子板市



2013年12月17日(火)・18日(水)・19日(木)  
浅草寺五重塔前(東京都台東区)  
主催/浅草歳の市実行委員会・東京歳之市羽子板商組合



(取材協力/東京歳之市羽子板商組合)